

# 序

長い時を経て、世間一般に専門医の存在が認識されるようになった。このことは、専門医が単なる個人的資格でなく、周囲からの要請に誠実に向き合うことが要求される社会的存在でもあることを意味している。同時に医療に必要な知識は日進月歩で拡大し、循環器領域もその例外でない。General “Practitioner” ならぬGeneral “Cardiologist” という言葉が生じたことはそれを象徴している。やがて専門医が三階建て方式（内科認定医-循環器専門医-循環器subspecialty専門医）となることが予想される現在、まさしく本書は社会的存在としての循環器専門医を志す人達のための、またそれだけでなくその上に制定されるであろう不整脈専門医をめざす人達のためのテキストである。

どの専門領域においてもいまやEBMは必須のツールである。それは社会的にaccountabilityをもつ用語だからである。この要諦は、個の患者における治療を決定する際に、best clinical evidence, clinical expertise, patient preferenceの統合を目指すという診療態度にある。clinical evidenceについては初学者でもテキストや論文から学ぶことができる。これと異なり、clinical expertiseやpatient preferenceに関わる問題は十分な臨床経験を積んでこそはじめて理解できるという側面を有する。

本書の執筆陣は第一線で長く不整脈診療の経験を積み、真の意味でのEBMのエッセンスを知り尽くした先生方である。専門家が不整脈に関するclinical evidenceを十分に認識した上で、実際の診療ではどのような限界を考慮しながら現実の不整脈治療を計画していくのか、これは誰しもが知りたいことであろう。各著者による症例呈示は、経験豊かな先生の後ろにつきながらその診療を観察するという感覚をおこしながら、専門医試験に十分な備えを提供してくれることと思う。本書が、読者を通してこれからの不整脈治療の向上に貢献できるものであれば、編者としてこの上ない喜びであり、執筆された先生方の貴重な、また多くの診療経験に頭を垂れたい。

2010年1月

山下武志